

Rotary



Weekly Bulletin Vol.69 No.44 2024-2025 RI会長 ステファニーA. アーチック 泉大津ロータリークラブ (創立1956.5.4)

週報 第3295回

会 長 渡辺 万寿 副会長 瀧谷 達
幹 事 根尾 玲子 SAA 中田 広宣

例会場 ホテルレイクアルスターアルザ泉大津
TEL 0725-20-1121
例会日時 毎週金曜日12:30~13:30

Izumiotstu Rotary Club
泉大津ロータリークラブ



事務局 〒595-0062 泉大津市田中町10-7 泉大津商工会議所3F
TEL.0725-21-9500 FAX.0725-21-9501
メールアドレス info@izumiotstu-rc.org
ホームページ http://izumiotstu-rc.org



今週の例会 (2025年6月20日) 第3295回

■ プログラム

「一年を振り返って」
会長・幹事・SAA

■ 次週のプログラム

・ 6月27日 : 最終例会懇親会

■ 今後の予定

・ 7月 4日 : 新年度会長挨拶

■ 祝 誕生日

外山 正明(24日)
原 正人(26日)

■ 今月のロータリーソング

奉仕の理想

今月の歌

かたつむり

でんでん虫々 かたつむり
お前の頭は どこにある
角だせ 槍だせ 頭だせ

■ 先週の例会



会長の時間 渡辺 万寿 会長

2025年6月ガバナーメッセージ(抜粋)

「ロータリーのマジック」親愛なる地区内のロータリアンの皆さまへ、2024-25年度もいよいよ終わりに近づいています。この一年間、皆さまが示してくださった献身と奉仕の精神に、心からの感謝を申し上げます。ロータリーの精神のもと、それぞれの地域で活動し、多くの人々に希望を届けたことは、まさに「ロータリーのマジック」といえるでしょう。このマジックは、一人ひとりの努力、思いやり、そして確かな行動によって生み出されたものです。教育支援のプロジェクトでは未来を担う子どもたちに可能性を広げ、環境保護の活動では地球の豊かな未来を守り、健康促進の取り組みでは多くの人々の命と生活を支えてきました。それら

べてが、皆さまの情熱と努力の結晶です。また、この6月は「ロータリー親睦活動月間」でもあります。奉仕活動だけでなく、ロータリアン同士の絆を深めることも重要です。親睦を通じて生まれた友情と協力が、活動の力となり、より大きなインパクトを生むのです。地区内の皆さまが互いに支え合い、共に成長しながら活動して下さったことは、ロータリーの魔法の一部となりました。異なる背景や価値観を持つ人々が集い、共通の目標に向かって団結することこそ、ロータリーの素晴らしさなのです。今年度も、地区内のすべての事業が無事に終了し、素晴らしい成果を上げることができました。これは、ロータリアン一人ひとりの努力と、各クラブの協力によって成し遂げられたものです。地域社会への貢献を続ける中で、皆さまの献身と奉仕の精神が、多くの人々の未来を照らしてくれました。改めて、この一年間の皆さまの情熱と支えに深く感謝いたします。

あとがき(初版に掲載したもの)

ロータリアンと呼ばれる人々の、ロータリーへの関心は様々なものがあると思います。入会後の歳月によっても違うでしょうし、入会の動機によっても、更に又、入会以前からの知り合いが何人位おられるか、によっても千差万別でしょう。或いは、その人がいわゆる地元会員か、それとも転任の可能性のある人かによっても大きな相異がある筈です。

しかしながら、入会して5年経ち10年が過ぎてくると「1年間に50回近い例会に出席して、忙しい最中にメーキャップをして、一体自分は何の引力に引きずられているんだろう。ロータリーが国際的な勢力になっていることは分かるが、ロータリーの本当の正体とは何なのか?」と、少なくとも一度や二度、真剣に考えたことがあると思います。

確かに最近のロータリーの色々な情報や大型の会合などにふれてみると、

一種のマンネリズムを感じることが時々あります。

ロータリーってこんなものかと、ふと嫌気を感じることさえあります。

告白いたしますと、私もその一人でありました。バッジを頂いて20年以上になりますが、その間色々なことがありました。最も大きなショックは、私の推薦した大学時代からの親友が、地元会員でありながら入会后、僅か2年足らずで退会したことでした。

そんなことがあってから、あれこれ考えあぐんでいた私

は、ロータリーの源流といったような物にふれてみたくなりました。創始者ポール・ハリスがその79年の生涯に3冊の著書を残していることを知りました。そしてその中の2冊だけは先輩ロータリアン米山梅吉氏の名訳で読み終えました。

“The Founder of Rotary”(ロータリーの創始者)
1928年刊行

“This Rotarian Age”(ロータリーの理想と友愛)
1935年刊行

その結果、現在国際ロータリー中央事務局からの色々な資料では、汲みとることのできなかった色々なことが分かりました。と同時に残りの1冊にも何とかして触れてみたくなりました。

“My Road to Rotary”(わがロータリーへの道)
1948年刊行

色々探索の結果、この著書には、未だに邦訳が無いことを知りました。

世界第2位のロータリー国となった日本に、その運動の創始者の著作の邦訳が無いのは一寸不思議でした。

昨秋のある日、当クラブの事務所の書庫からその抄録が偶然発見されました。

Selection from “My Road to Rotary”

1965年 国際ロータリー中央事務局発行

本書はそれを翻訳したものです。私の学校の後輩2人が協力してくれました。昨年9月、ロータリー財団奨学生として帰国した若佐武司君(本年4月東海銀行入社)と、札幌旭ヶ丘高校の英語教諭鈴木徹君です。心から感謝しております。

「理想と友愛」はロータリーのバイブルとも言われる名著ですから、既にお読みになった方も多いと思われます。「創始者」と此の「ロータリーへの道」は何れもポール・ハリスの自叙伝です。けれどもこれ等2冊の著書が刊行された時点には20年の間隔があります。それに、これは私見ですが、「創始者」の方は、実際の筆は初代事務総長チェスレイ・ペリーが執ったのではないかと思われる節があります。何はともあれ私個人としては、本書を読み終えて、初めて自分が求めていたロータリーの源流を見たような実感が湧きました。

冒頭に述べた如く、ロータリーの捉え方各人各様です。それはそれで良いと思います。

唯長い間バッジをつけておられて、ふと「会員であることの意味」の空しさを感じられた時など、此の本がそれを充たしてくれるかも知れません。

最後に本書の出版に当り、色々とお世話になった、

多数の札幌南クラブの会員、特に森松パストガバナー、林副会長、本間幹事、金井会員、及び事務局の斎藤悦子さんに心から謝意を表します。

1978年6月

札幌南ロータリークラブ

1977-78年度 会長 竹山 涼一

1983-84年度 RI第2510地区ガバナー

1997-99年 RI 理事

幹事報告

根尾 玲子 幹事

○本日皆様のメールボックスに、住友佳澄様に係る「会員候補被推薦者氏名」の用紙を入れさせていた
だいております。異議のある方は、細則により一週間
以内に理由を明記の上、事務局まで提出をお願い
します。

○来週27日の例会は、今年度の最終例会になりま
すので、夜間例会となります。お昼に例会は開催さ
れませんので、ご注意くださいようお願いしま
す。

○来週16日月曜日は、事務局お休みの日となってお
りますので、ご注意ください。

委員会報告

なし

■ ビジター

なし

■ 出席報告

会員数42名 出席免除1名

月日	出席数	欠席	補充	出席率
6/13	31名	11名	—	73.81%
5/30	33名	9名	3名	85.71%

■ メークアップ

榎本(6/12 ワールド大阪ロータリーEクラブ)

今井(康)(5/30 家庭集会)

瀧谷(6/6 新旧理事役員会)

■ ニコニコ箱

- ・本日は小野寺巧会員、宜しく御願い致します(渡辺)
- ・小野寺会員、本日の卓話をどうぞ宜しくお願いしま
す(根尾)
- ・本日の卓話 小野寺様、よろしくお願いします(中田)
- ・本日 小野寺会員、卓話宜しくお願いします(松内)
- ・長期欠席のおわび(高寺)

ニコニコ箱合計	26,000円
累計	884,500円

先週のプログラム



卓話担当 小野寺 巧 会員

- ①仕事の話 鉄人28号モニュメント塗装現場
- ②落書き消しの話
- ③シーパspark イベントの話
- ④娘の受験の話
- ⑤ハジケテマザレ ゴミナビボランティアの話

①仕事の話 鉄人28号モニュメント塗装現場

1. 新長田駅にある鉄人28号のモニュメント制作に
2009年に岸和田の北海製作所さんからのお話
でプロジェクトに加わりました。神戸出身の漫画家
横山光輝さんの代表作【鉄人28号】の誕生から
50周年に合わせて、再開発が進むJR新長田駅

周辺の地元有志がKOBÉ鉄人プロジェクトを立ち上げ、神戸・新長田の震災復興の象徴にしたいとまちづくりの一環として設置されました。

※横山光輝さん(よこやまみつてる)の代表作として

鉄人28号・伊賀の影丸

仮面の忍者赤影・魔法使いサリー・バビル2世・三国志などがあります。

2. 今回の工事金額は310万円(税別)でしたが、非常に見積が難しかったです。図面と実物は見て計算して見積ができるのですが、モニュメントの内側を今回初めて全塗装をするということで、見積段階ではまだ中に入って見られない。ということは過去の記憶と時間の経過を想像して見積をするという正直、無理でしょって云う気持ちでした。とにかく内部の塗装が難しい。

空気の換気が出来ないので安全性の確保やとても狭いので塗装のやり難さを想定しての見積になりました。

3. 工事自体はかなり手間取りました。2月の寒い時期の工事ということで、雪が降る最悪のタイミングでした。温度が高い時期になると鉄で出来ている28号の中はとても高温になり危険ということで出来ませんでした。2月の工事は鉄が凍てつく日もあり塗装不可のタイミングもありました。又、内部側では湿気による夜露が発生してペンキが塗れない事も多々ありました。一番苦労したのは腕と足の狭い部分です。ウチの熟練した職人さんですら、なかなか入っていくのをぐずる位の作業となりました。投光器とヘッドランプを付けて、さらに臭い対策にマスクをして狭い暗い中を進んでいく。確かに大変厳しい環境であったと思います。時にはなだめて、時には叱咤激励して、なんとか工事を進めていくという状態でした。シンナーの揮発がモニュメント内部に溜まることによる、意識の喪失を一番恐れていました。狭い腕の中では引き出しようが無いからです。ウチの奥さんは鳥を虫かごに入れて入ったらという原始的な方法も提案してくれました。逆に変に気を使うので辞退させていただきました。何度か電気が消えるトラブルもあり、腕の中にいた職人さんは正直出られないかもって思い、足震えたと言っていました。

外側では雪と寒さとの闘い、内側では安全作業と叱咤激励の連続で僕のメンタルもかなり削られました。

モニュメントの塗り替えは普通の塗装作業と違い

ます。

普段は職人気質90%・アート感覚10%位で作業をするのがいいと思いますが、モニュメントなどを塗装する時はその比率を50%ずつ位にして

アート感覚を増やして塗る必要があると思います。その感覚が中々職人さんに理解してもらえなくて少し困りました。塗装の強さと作業の繊細さの感覚がとても重要です。また、現場では常に足場のシートから人が中を覗いている状態で、時には足場の中にまで入ってこられる人もいました。

困難な現場となりましたが、工事を無事にやりきり、足場を取ったあと直ぐに見たキレイな鉄人28号はとても美しかったです。

次の日にはもう子供たちが足の上に乗って傷だらけでしたが・・・。

②落書き消しの話

1. 落書きを書く人は許可を取らずに、落書きを消す人は落書きを消していいですか?と許可をといても面白い状況になります。

2. 公共の落書き消しはボランティアでするのが良いと思います。

費用をかけても直ぐに書かれる場合があり、本気ですと腹が立ちます。

また、仕事で費用をもらおうと落書きに対して100%のクオリティーで消さなければなりません。また直ぐ書かれるのにもったいない。

今日は職人さんが早く帰ってくるし手伝ってもらおうかな(^^)位がちょうど良いと思います。

僕はただボランティアで落書き消しをしているだけではありません。

そんなに良い人ではありません。落書き消しを一石四鳥位に思っています。

まずはシンプルに綺麗になり、不安がなくなり、治安がよくなります。

次に、職人さんにも作業に加わってもらおうと、何故かその後の仕事の動きにも良い影響があります。すべて作業において優しくなる気がします。

3つ目に抱えている在庫処理に役立ちます。現場では必ず、塗料は余ってきます。処分するには多少なりとも費用がかかります。そんな時にぴったりののが落書き消しになります。仕事になると100%の調色が必要になりますが、ボランティアで消す場合は多少色が違っててもご愛敬です。僕なりのSDGsになっています。

最後の4つ目に次世代育成になります。大体落書き消しをする時は家族も誘うようにしています。息子に対しては親父の仕事を見てもらい多少なりとも経験させるという事や娘や奥さんに対してはコミュニケーションの一環として考えています。また、子どもたちの就活時のポートフォリオの一部になれば良いと思います。そういった考えから落書き消しの他にも夏フェスゴミナビボランティアやシーパsparkでのイベントにも一緒に経験することを誘ったりしています。

③シーパsparkでの活動の話

6月1日港湾清掃の日に欠席をさせていただき、私はシーパsparkでひまわりの種まきイベントをしていました。青年会議所時代からあの場所でひまわりを育てる事業などをしてきました。時が流れた今も、あの場所に関われていることに感謝しています。当日は公園を管理するEデザインさんのグリーンジャンボリーというイベントの中の一つとしてひまわりの種まきやひまわり横断幕の作成をしました。私は主に横断幕に手形を取るために手の平にペンキを塗るという大変地味ですがとても気を遣う作業を担当していました。約150人位の方が横断幕に手形を付けてくれました。中々楽しいイベントになりました。

ひまわりの開花は8月初旬になり、8月23日には納涼イベントを開催します。

また、11月24日にはまだ予定段階ですがよさこいイベントを計画しています。

④娘の大学受験の話

娘は今、絶賛浪人中で頑張っています。希望の京都市立芸術大学を目指していますが中々大変な道のりの様です。今春に経験した大学受験はとても興味深い時間でした。一般の大学受験も同じかもしれませんが、芸術・美術大学の受験も不確定要素満載で面白い受験となります。受験する人が今まで経験してきた事や時間、感覚、場所、質感、匂い、想像、未来、過去、などありとあらゆる方向性で

入試課題に問われています。対策しても対策してもこれはもう無理なんじゃないかなと思います。要するに受験する人の全てを見られている総合格闘技的なものであると思いました。いくら上手に絵を描ける人でも、いくら面白い立体が作れる人でも、その年に出された入試課題に対して、決まった時間内に反応して、かつ与えられた条件内に作品を制作し、さらに人とは違う、

答えのない正解をそれぞれが提出しなければいけないこの難しさはもう正に、運ゲームであります。

勝負は時の運といいますが、だからこそ諦めきれない気持ちがあるのでしょう。

出来れば今年で受験は終わって欲しいと思っていますが、納得できる様に頑張って欲しいです。

⑤ハジケテマザレ ゴミナビボランティアの話

10月25日(土)・26日(日)に泉大津フェニックスでハジケテマザレという音楽フェスが開催されます。そのゴミナビボランティアの取りまとめを青年会議所時代の仲間たちとしています。

もうすぐ募集が始まります。毎年すぐに埋まってしまいますので、興味のある方がいらっしゃいましたらご連絡してください。

駆け足になりましたが、これで私の卓話を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

.....

「かやぶき音楽堂」その2

八木 秀富 会員

2013年10月にエルンスト・ザイラーさんとカズコ・ザイラーさん夫妻による「かやぶき音楽堂」でのピアノデュオコンサートに参加しましたが、そのときの様子は2013年10月18日の週報に投稿しました。

今回、2025年6月15日に、カズコ・ザイラーさんとジュリアン・ヴァルダールさんの京都府南丹市日吉町上胡麻に在る「かやぶき音楽堂」でのピアノとヴァイオリンのデュオコンサートに行きました。カズコ・ザイラーさんは、日本各地、世界各地で演奏活動をされています。

「かやぶき音楽堂」は福井県の禅寺を1989年に胡麻の里に移築した国の有形登録文化財です。田園と後背の小山の風景に溶け込みとても長閑です。今回も行きましたが、胡麻の里は12年前とその雰囲気は殆ど変わっていません。

2013年に、「かやぶき音楽堂」コンサートに行った時は、御主人のエルンスト・ザイラーさんとのピアノ連弾でしたが、御主人は2017年に亡くなられています。

今回は、モーツァルトのヴァイオリンソナタ、エルンストの魔笛をはじめ8曲を聴かせてもらいました。ウイーン在住で25歳の若きヴァイオリニスト、ジュリアン・ヴァルダーさんとのデュオコンサートです。ヴァルダーさんのヴァイオリン演奏は素晴らしく、ザイラー夫人の演奏とも息がピッタリでした。

ヴァルダーさんは、世界各地のヴァイオリンコンクールで優勝する等素晴らしいヴァイオリニストですが、ヴァルダーさんが「かやぶき音楽堂」で演奏するきっかけとなったのは、ザイラー夫人がお正月にウイーンで過ごした時に、元駐日オーストリア大使にヴァルダーさんを日本でも演奏する機会を設けてほしいとの依頼で、今回の「かやぶき音楽堂」でのコンサートが日本で初めてのコンサートとなりました。ヴァルダーさんは、現

在日本語を勉強していて、漢字も200字覚えたそうです。

夫人の奏でるピアノはスタインウェイですが、ヴァルダーさんの弾くヴァイオリンは素晴らしい名器との説明がありましたが、私の知らない名前なので忘れまして。

いつもの事ですが、コンサートは9割近くが中高年の女性で、私のような男性は奥様に付いて来ている人達だと見受けました。女性は元気です。

今回も、ザイラー夫人手作りのおむすびと自家製ケーキのおもてなしです。演者の建物で開催する小規模なコンサートならではの温かみです。長閑な環境の中での素晴らしいコンサートに心が洗われました。

「かやぶき音楽堂」



ザイラー夫人とヴァルダーさん



ジュリアン・ヴァルダー JULIAN WALDER

ジュリアン・ヴァルダーは、2000年10月にオーストリア、ウィーンで生まれたヴァイオリニスト。5歳でヴァイオリンを学び始め国内外、世界各地の数々のヴァイオリンコンクールで、優勝、上位入賞。NYIAA「ニューヨーク国際芸術協会」で一等賞を受賞。カーネギーのワイル・リサイタルホールで演奏。2023年には、アンリ・マルトール国際コンクールで上位入賞。ヨーロッパ、アメリカなど世界各地で活躍。スペインのレーベル KNS Classicalのアーティストとして2021年にCD「Faust」を世界中でリリース。彼は2022年から定期的にマスタークラスでも教えている。2018年からはThomastik-Infeld Wienの支援を受けている。ジュリアンは、11歳からリンツのブルクナー大学、クララ・シューマン音楽大学（KUG）、ドレスデンのK・Meyのユースバー大学でナタリヤ・プリシエンコに3年間学んだ後、D・フリーデヴィルトのもとウィーン音楽舞台芸術大学（MDW）などで学ぶ。世界的な数々の著名な音楽家のマスタークラスにおいても研鑽。アルガティ・フォン・フォン・基金も受けている。

HP: <https://www.julianwalder.com>

カズコ・ザイラー KAZUKO ZELLER

京都生まれ。桐朋学園高等部音楽科卒業後、ザルツブルク・モーツァルテウム音楽院へ進学。1972年、エルンスト・ザイラーとザイラーピアノデュオを結成。日本各地、世界各地において、演奏会、オーケストラ協演、国際音楽祭出演、CD録音等活躍。TV朝日「親子の部屋」NHK「わが心の旅」をはじめ、多くのTV番組に出演。講義、執筆などメディアに度々登場して多彩な活動を続けている。

平成元年に、京都府、明倫の里にかやぶき音楽堂＜同の里文化財＞を建立。かやぶきコンサート、かやぶき音楽堂国際デュオコンクールを開催。京都府文化庁功労賞、京都府芸術者賞（アート文化部門）、なお文化庁より地域文化功労者文部科学大臣表彰など、数々の賞を受賞している。

2022.11～南丹市文化観光大使

HP: <http://kayabuki.com>



演奏の様子
(ピアノ:ザイラー夫人、
ヴァイオリン:ヴァルダーさん)

右がヴァルダーさん